



第2回新廃棄物処理施設整備検討委員会開催

産廃受入NO! 公設公営で持続可能なごみ処理を!

24日(日)に、ごみの処理施設整備の検討委員会の2回目が開かれました。

市から公民連携方式という民設民営を推進する土台となった「地域循環共生圏構想」について説明があり、全国事例の検証も出されました。

その後委員の専門的知識に基づく「廃棄物の種類とごみ焼却」

(村上篤司先生)「ネットゼロ」

(CO₂排出O) 社会における廃棄物処理」(石川雅紀先生)の説明があり、施設の建設や運用などの経費見込みの数字が市から示されました。

録画配信が見られる他、資料も開示されています。

是非ホームページからご覧下さい。

ネット環境ないけど資料が見たい方はご連絡下さい。



里山の春
キンラン

〈勝川の感想〉

・掛川版シュツタットベルケ(地域新電力)では官民連携が謳われていて、確かに再エネのひとつとして廃棄物発電があげられている。

これが「ごみ発電を民間と連携して行なう」ベースになっているという認識が私にはなかった。

・民設民営方式は現在ほとんど例がなく、「産廃の量の確保が難しく、運営費がかさむ」として、公設施設への切り替えを決めた倉敷市などもあり、課題は多い。

・「ダイオキシン類は技術進歩でほとんど排出されなくなったが、産廃の塩素を含むプラ類には注意が必要」と説明があった。

・産廃受入にはリスクがある。
・今後CO₂排出は高くつくようになる。

ごみを極力出さない近未来の廃棄物処理を見越していく知見こそ重要で、ごみ量の推計見直しや費用計算にもとづき計画の抜本的見直しが必要だと改めて思いました。

4月臨時会で予算決算常任委員会設置

市のお金の使い方をきっちり審議し、チェックする事は大切な議会の役割です。今まで3つある常任委員会への分割付託だったので、自分の所属する委員以外では傍聴もできず、議論の詳細が採決の前によくわからないう状態でした。



「掛川市議会は会派制を取っているのだから、会派議員がいる委員会に対しての質疑などを本会議でするべきではない。」と議長のお達しがありました。

これでは、大きい会派の自民党の皆さんは一切質疑ができないこととなります。当局提案に、なんの質疑や議論もなく、本会議で賛成、異議なしを繰り返す議会運営で本当にいいのか。

共産党議員団は本会議質疑で問題を投げかけ、反対討論もしています。議事録を是非ごらん下さい。委員会も含め、市民の皆さんも傍聴ができます。

(中継は本会議だけです)

議会改革の一步前進です。

掛川市茶振興計画中間見直し(案) 「掛川茶未来創造プロジェクト」

パブリックコメント募集中です。(5/27まで)



茶業を取り巻く環境は大変厳しく、掛川市の茶生産は存亡の危機にあります。生産者の取組とともに農協や茶商、行政が一丸となって支援する体制を作ろうとしています。

私は夏でも冬でも基本「掛川深蒸し茶」です。荒れた茶畑、後継者不足、消費の落ち込みと問題は山積み。消費者目線でいうと、「おいしくて、安全で、手頃なお茶を持続可能な生産で維持してほしい」わけです。

粟ヶ岳から見る茶畑は掛川原風景。市民の声も反映させて、「お茶のまち掛川」を支える知恵が絞りたいですね。